

教科・科目		国語・現代の国語			単位数	2単位		
					対象学年	1 学年		
担当者	1 組	2 組	3 組	4 組	5 組			
教科書		新編 現代の国語 数研出版						
補助教材		常用漢字の1・2トライ 浜島書店						
目標		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等		
教科の目標		生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。		生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。		言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。		
科目の目標		実社会に必要な国語の知識や技能を身に着けるようにする。		論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
	単元名	単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準		知 思 態	配当時数
1 学期	学び直し 「国語」	知 高校入学までの国語の基礎知識を理解する。	・接続詞、呼応の副詞 ・漢字（漢検5級程度）	知 小テスト	〇 〇	5		
		思		思				
		学 国語の知識を理解しようとしている。		態 授業態度				
	大切にしているもの スピーチ	知	・スピーチ原稿を書く ・スピーチ	知	〇〇	4		
		思 「大切にしているもの」というテーマでスピーチ原稿を作ることができる。		思 ワークシート				
		学 他生徒のスピーチについて聞き、感想を書くことができる。		態 ワークシート				
	中間考査				〇〇	1		
	・評論の読み方 ・「時間とは何か」池内了	知 評論文を読む上での必要知識を理解する	・文章読解	知 小テスト	〇〇〇	6		
		思 内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確にとらえ、要旨や要点を把握している。		思 ワークシート				
		学 学習課題に沿って活動を行っている		態 ワークシート				
	日常の中の文章 「写真を文章で説明する」	知 具体的と抽象を理解する。	・演習 ・作文	知 ワークシート	〇〇〇	4		
		思 どのように書いたら伝わりやすいか工夫をしながら書いている。		思 ワークシート				
		学 学習課題に沿って論理的にまとめようとしている。		思 ワークシート				
	文章の展開を把握する 「地球を旅する水の話」	知 評論文を読む上での必要知識を理解する	・文章読解	知 ワークシート	〇〇〇	6		
		思 内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確にとらえ、要旨や要点を把握している。		思 ワークシート				
		学 学習課題に沿って論理的にまとめようとしている。		思 ワークシート				
期末考査				〇〇	1			

2学期

2学期	「対比」	知 対比について理解する。	・演習 ・作文	知 小テスト	〇〇〇	3
		思 対比を理解し、短い文章を書くことができる。		思 ワークシート		
		学		思 ワークシート		
	対比を読み取る/ 里山物語	知 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使うことができる。	・文章読解	知 小テスト	〇〇〇	6
		思 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握することができる。		思 ワークシート		
		学 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。		思 ワークシート		
	対比を読み取る 「水の東西」	知 個別の情報と一般化された情報との関係について理解している。	・文章読解	知 ワークシート	〇〇〇	6
		思 内容や構成、論理の展開などについて叙述をもとに的確にとらえ、要旨や要点を把握している。		思 ワークシート		
		学 学習課題に沿って論理的にまとめようとしている。		態 ワークシート		
	中間考査				〇〇	1
	言葉の働きをとらえる/ コインは円形か	知 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解することができる。	・文章読解	知 ワークシート	〇〇〇	6
		思 目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深めることができる。		思 ワークシート		
		学 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。		態 ワークシート		
	書き手の考えを比較する/ 科学的とはどういう意味か	知 推論の仕方を理解し使っている。	・文章読解	知 ワークシート	〇〇〇	6
		思 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握しようとしている。		思 ワークシート		
		学 粘り強く筆者の意見を理解し、学習課題に沿って自分の考えを説明しようとしている。		態 ワークシート		
	話し言葉の技術/ ディベート・討議	知 主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。	・ディベート	知 ワークシート	〇〇〇	4
		思 論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価する。		思 ワークシート		
		学 ディベートを踏まえて、自分の考え方について振り返り、積極的に話し合おうとしている。		態 ワークシート・授業態度		
	期末考査				〇〇	1

3学期	書き手の考えを比較する/【チェックポイント4】必要な情報を整理して書く	知 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解することができる。	・読み手を意識した文章を書く	知 ワークシート	〇〇〇	2
		思 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。		思 ワークシート		
		学 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。		態 ワークシート		
	根拠を読み取る/「差」という情報	知 主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。	・文章読解	知 ワークシート	〇〇〇	6
		思 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫することができる。		思 ワークシート		
		学 筆者の意見を踏まえて積極的に自分の考えを深め、学習課題に沿って適切にまとめようとしている。		態 ワークシート		
	根拠を読み取る/「わらしべ長者」の経済学	知 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する。	・文章読解	知 ワークシート	〇〇〇	6
		思 文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。。		思 ワークシート		
		学 自分の考えが適切に伝わるように、主張や論拠の説明を積極的に補足しながら意見交換を行い、学習課題に沿って、自分の考えをさらに深めようとしている。		態 ワークシート		
	書き言葉の技術/意見文を書く	知 引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使うことができる。	・意見文を書く	知 ワークシート		3
		思 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりすることができる。		思 ワークシート		
		学 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。		態 ワークシート		
	期末考査				〇〇	1

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目		国語・言語文化			単位数	2単位		
					対象学年	1 学年		
担当者		1 組	2 組	3 組	4 組	5 組		
教科書		『新 言語文化』 三省堂						
補助教材								
目 標		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等		
教科の目標		生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。		生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。		言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。		
科目の目標		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、わが国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。		深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
	単元名	単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準		知 思 態	配当時数
1 学期	学び直し 「古典常識」	知 旧国名や陰暦などを学び、社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、わが国の言語文化に対する理解を深める		・旧国名 ・陰暦	知 小テスト		〇 〇	4
		思			思			
		学 旧国名や、陰暦を覚えようとしている。			態 授業態度			
	学び直し 「漢文」	知 漢文の世界に親しみ、訓点などの漢文の基礎知識を理解する。		・漢文の表記について ・レ点 ・一二点 ・故事成語	知 小テスト		〇〇〇	5
		思 訓読法を理解し、書き下し文を作ることができる。漢文の文章を読み、書かれている事柄について理解する。			思 小テスト			
		学 訓読法について理解しようとしている。			態 授業態度・提出物			
	中間考査						〇〇	1
	学び直し 「漢文2」	知 漢文の世界に親しみ、訓点などの漢文の基礎知識を理解する。		・一レ点 ・ひらがなにする漢字 ・置き字 ・書き下し文 ・故事成語	知 小テスト		〇〇〇	6
		思 訓読法を理解し、書き下し文を作ることができる。漢文の文章を読み、書かれている事柄について理解する。			思 小テスト			
		学 訓読法について理解しようとしている。			態 授業態度・提出物			
	漢文「説苑」	知 漢文の文法事項を整理し、適切な書き下し文を書き、現代語訳している。		・「説苑」本文書き下し ・現代語訳 ・文章読解	知 小テスト		〇〇〇	7
		思 登場人物のげんどうをそれぞれ整理し、人物の発言の意図を理解することができる。			思 小テスト			
		学 人物の発言について理解したことをまとめ、それについての意見や感想をグループ内で発表しあおうとしている。			態 授業態度・提出物			
	期末考査						〇〇	1

2学期	小説「羅生門」	知 表現の仕方や表現の特色について評価しながら、物語の場面設定を正確にとらえている。	・芥川龍之介について ・小説の表現「語り手」 ・文章読解 ・作文	知 ワークシート	〇〇〇	12
		思 作品の展開をとらえ、自分の解釈やその根拠をまとめている。		思 ワークシート		
		学 物語の展開を根拠にして、自分なりの見方や考え方を文章に表現しようとしている。		態 授業態度・提出物		
	中間考査				〇〇	1
	古文 「児の飴食ひたること」	知 作品の背景について理解し、自らも語り継がれた文学の受け手であることを認識している。歴史的仮名遣いを理解している。	・歴史的仮名遣いについて ・「児の飴食ひたること」現代語訳 ・助動詞「ず・けり」	知 ワークシート・小テスト	〇〇〇	10
		思 作品が成立した背景や、文章と絵画との関係を踏まえて、内容の解釈を深めている。		思 ワークシート		
		学 物語の構成要素について意見交流し、ほかの物語に当てはめるなど、発展的に考察しようとしている。		態 授業態度・提出物		
	古文 「伊勢物語」	知 和歌特有の表現技法とその効果について理解している。歴史的仮名遣いについて理解している。	・歴史的仮名遣いについて ・古文単語 「伊勢物語」について ・「芥川」現代語訳 ・「筒井筒」現代語訳 ・作文	知 ワークシート・小テスト	〇〇〇	10
		思 作品が成立した背景や、文章と絵画との関係を踏まえて、内容の解釈を深めている。		思 ワークシート		
		学 筆者の考え方を参考にして、自分なりの見方や感じ方を踏まえて文章にまとめようとしている。		態 授業態度・提出物		
	期末考査				〇〇	1
3学期	古文「徒然草」	知 古典の言葉と現代の言葉とのつながりを考え、筆者が「あはれに」感じていることや「ことさめ」た理由をとらえている。	・歴史的仮名遣いについて ・古文単語 「徒然草」について ・「神無月」現代語訳 ・作文	知 ワークシート	〇〇〇	9
		思 筆者の考えをとらえ、自分なりの見解をまとめている。		思 ワークシート		
		学 筆者の人と住まいの関係についての共通する考え方をとらえ、自分なりの意見や感じ方を文章にまとめようとしている。		態 授業態度・提出物		
	小説 「なめとこ山の熊」	知 「なめとこ山の熊のことならおもしろい」の「おもしろい」の意味を考え、ラストシーンに向かう作品全体の構成をとらえている。	・宮沢賢治について ・小十郎と荒物屋、熊の三者の関係について考える ・文章読解 ・作文	知 ワークシート	〇〇〇	10
		思 作品に描き出された事柄をとらえ、自分なりの見解をまとめている。		思 ワークシート		
		学 作品全体をとらえて、自分なりの見方や考え方を文章にまとめようとしている。		態 授業態度・提出物		
	期末考査				〇〇	1

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目		国語・古典演習Ⅰ			単位数	2単位
					対象学年	2学年
担当者		X2				
教科書		なし				
補助教材		「Key&Pointみるみる覚える古文単語300+敬語30」いづな出版、「完成古典文法 改訂版」尚文出版、「必携古典文法練習ノート」尚文出版				
目標		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
教科の目標		生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことが出来るようにする。	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。	言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、わが国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。		
科目の目標		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、わが国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
	単元名	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態	配当時数
Ⅰ学期	A 単元 古今著聞集『大江山』	知・技/文学史上の基本的な知識を持つ。和歌の修辞を理解できる。	・指導事項 音読し大意を捉える。/辞書を調べて自力で解釈する。/登場人物の心情や行動を読み味わう。/古典文法(用言) ・教材 文法書、 ・一人1台端末の活用 等	知・技/正しく音読している。和歌の修辞を理解している。	〇〇〇	6
		思判表/内容を構成や展開に即して理解できる。		思判表/内容を構成や展開に即して理解している。適切に口語訳できる。		
		人間性/古文に親しみを持ち、話の面白さを理解できる。		主体/古文に親しみを持ち、日本の言語文化の理解を深めている。		
	B 単元 竹取物語『御門の求婚』	知・技/古典文法を理解し口語訳できる。	・指導事項 音読し大意を捉える。/辞書を調べて自力で解釈する。/登場人物の心情や行動を読み味わう。/古典文法(用言) ・教材 文法書、 ・一人1台端末の活用 等	知・技/正しく音読している。和歌の修辞を理解している。	〇〇〇	7
		思判表/物語の内容の面白さを理解できる。		思判表/内容を構成や展開に即して理解している。適切に口語訳できる。		
		人間性/昔話としてなじみのある作品を読んで古文に親しむ。		主体/和歌に込められた思想や感情を読み取ろうとしている。		
	中間考查				〇〇	1
	C 単元 方丈記『行く河の流れ』	知・技/古典文法を理解し口語訳できる。	・指導事項 和歌の修辞を理解する。/区切れやリズムに注意して朗読・暗誦する。/歌人について調べたり発表したりする。/古典文法(助動詞) ・教材 文法書、 ・一人1台端末の活用 等	知・技/区切れに注意して正しく朗読・暗誦している。	〇〇〇	6
		思判表/作者の思想や感情を読み取ることができる。		思判表/作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めようとしている。		
		人間性/無常観について理解し、人間、社会、自然などについて考察する。		主体/教訓を理解し、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を効果的に使おうとしている。		
	D 単元 古今和歌集	知・技/文学史上の基本的な知識を持つ。和歌の修辞を理解できる。	・指導事項 和歌の修辞を理解する。/区切れやリズムに注意して朗読・暗誦する。/歌人について調べたり発表したりする。/古典文法(助動詞) ・教材 文法書 ・一人1台端末の活用	知・技/区切れに注意して正しく朗読・暗誦している。	〇〇〇	6
		思判表/和歌に込められた思想や感情を読み取り、人間、社会、自然などについて考察する。		思判表/作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めようとしている。		
		人間性/優れた表現に親しみ、好きな歌を暗誦できる。		主体/教訓を理解し、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を効果的に使おうとしている。		
	期末考查				〇〇	1

2学期	E 単元 十八史略『水魚之交』『赤壁之戦』	知・技/魏・呉・蜀三国の興亡について知識を得る。	・指導事項 訓点に従い正しく読む/書き下し文に改める。/話の内容を掴む。/ ・漢文法・教材 プリント ・一人一台端末の活用	知・技/正しく訓読する。		14
		思判表/長編のおもしろさを理解する。		思判表/作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めようとしている。		
		人間性/登場人物の行動と心理を読み取り、積極的に内容を理解しようとする。		主体/教訓を理解し、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を効果的に使おうとしている。		
	中間考査				〇〇	1
	F 単元 源氏物語『桐壺』『若紫』	知・技/敬語法や助動詞の知識を確認し、口語訳する。	・指導事項 助動詞や敬語法を理解し適切に口語する。/登場人物の行動と心情を理解する。/長編のおもしろさを理解する。 ・教材:文法書 ・一人1台端末の活用 等	知・技/古典の世界に親しむために、古語や作品の文化的背景を理解しようとしている。	〇〇	15
		思判表/和歌に込められた意味を理解できる。		思判表/作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めようとしている。		
		人間性/登場人物の行動と心理を読み取り、積極的に内容を理解しようとする。		主体/教訓を理解し、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を効果的に使おうとしている。		
	期末考査				〇〇	1
3学期	G 単元 百人一首	知・技/文学史上の基本的な知識を持つ。和歌の修辞を理解できる。	・指導事項 和歌を暗誦する/和歌を鑑賞する/カルタ取りのルールを理解して楽しむ。 教材 百人一首札	知・技/和歌に親しみ暗誦できる。	〇〇〇	4
		思判表/和歌に込められた意味を理解できる。		思判表/和歌の意味を理解し、上の句から下の句を導くことができる。		
		人間性/我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、仲間と正月行事を楽しむ。		主体/ルールを守り、メンバーと共に楽しむことができる。		
	H 単元 平家物語『能登殿最期』	知・技/和漢混淆文の特色を理解し適切に口語訳したり暗誦したりしている。	指導事項 古典文法に注意して、適切に口語訳できる。/登場人物の心情変化を捉える/武士の精神に触れ人生や社会について考える。	知・技/和漢混淆文をリズムよく読むことができる。	〇〇〇	15
		思判表/優れた表現を味わう。		思判表/文法に気をつけて口語訳できる。		
		人間性/源平合戦について調べたりしながら内容の面白さを理解する。		主体/我が国の言語文化の担い手として自覚をもち、軍記物語の面白さを理解できる。		
	期末考査				〇〇	1

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目		国語表現			単位数	2単位
					対象学年	2学年
担当者		XI				
教科書		国語表現 大修館書店				
補助教材		国語表現 基礎練習ノート 大修館書店				
目標		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等	
教科の目標		生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	
科目の目標		社会に必要な国語の知識や技能を身に着けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
	単元名	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態	配当時数
1学期	表現力を培う	知 表記の決まりを意識し、正しく書く。	・言葉と表記、係り受け、文末表現の統一、接続表現の使い方などを意識し、より適切な表現になるように吟味する。 ・原稿用紙の使い方を理解する。 ・教材 教科書、基礎練習ノート	知 ワークシート	〇〇〇	26
		思 長すぎる文を避け、わかりやすい文にする方法を理解する。		思 論作		
		学 場に応じた言葉を使い分けることについて、積極的に取り組もうとしている。		態 観察		
2学期	伝える、伝え合う	知 5W1Hを明確にし、事実と意見を区別して文章を書く。	・言葉と表記、係り受け、文末表現の統一、接続表現の使い方などを意識し、より適切な表現になるように吟味する。 ・原稿用紙の使い方を理解する。 ・教材 教科書、基礎練習ノート	知 ワークシート	〇〇〇	17
		思 相手に伝えることを意識してわかりやすい文章を書く。		思 論作		
		学 伝え合うことの楽しさを知り、積極的にコミュニケーションに取り組もうとしている。		態 観察		
	会話・議論・発表	知 場面にふさわしい言葉遣いを考える。	・言葉と表記、係り受け、文末表現の統一、接続表現の使い方などを意識し、より適切な表現になるように吟味する。 ・原稿用紙の使い方を理解する。 ・教材 教科書、基礎練習ノート	知 ワークシート	〇〇〇	15
		思 話し合いのステップを意識しながら話し合いに参加し、建設な議論になるように協力し合う。		思 論作		
		学 相手や場面に応じた会話をすることに興味をもち、意欲的に活動に取り組もうとしている。		態 観察		
3学期	文章を読み取って書く	知 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	・言葉と表記、係り受け、文末表現の統一、接続表現の使い方などを意識し、より適切な表現になるように吟味する。 ・原稿用紙の使い方を理解する。 ・教材 教科書、基礎練習ノート	知 ワークシート	〇〇〇	20
		思 読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように、接続表現の使い方を吟味し、文章全体を整えている。		思 論作		
		学 単元のまとめとしての設問に積極的に取り組もうとしている。		態 観察		

指導目標 知＝知識及び技能 思＝思考力、判断力、表現力等 学＝学びに向かう力、人間性等

評価規準 知＝知識・技能 思＝思考・判断・表現 態＝主体的に学習に取り組む態度

教科・科目		文学国語			単位数	2単位
					対象学年	2学年
担当者	1組	2組	3組	4組	5組	
教科書		新編 文学国語（大修館書店）				
補助教材		新編文学国語 学習ノート（大修館書店）、新訂 総合国語便覧（第一学習社）				
目標		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
教科の目標		生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことが出来るようにする。	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。	言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、わが国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。		
科目の目標		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、わが国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う		
	単元名	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態	配当時数
Ⅰ学期	『そとみとなかみ』角田光代	筆者のいう「外側」と「内側」を理解する。	グループに分かれて、自分が他人をどう思っているか、自分が他人にどう思われているか話し合う。結果を各自まとめる。	我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにするようにしている。	〇〇〇	7
		物事を対比して捉え、認識を深める。		作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈しようとしている。		
		友人と意見交換し、他者理解をする。		言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げ、自己理解、他者理解しようとしている。		
	『晴れた空の下で』江國香織	自力で読み、ストーリーを理解する。	グループに分かれて、「生きることと食べること」について話し合う。結果を各自まとめる。前回の発表に基づき、小説を踏まえて「生きることと食べること」について自由に表現する。（600字程度）	語句や特有の表現を調べ、自力でストーリーを理解しようとしている。	〇〇〇	7
		叙述を的確に捉え、面白さを他者と共有する。		文章の種類を踏まえて内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確に捉えようとしている。		
		他者と内容を共有し、更に深い読みにつなげる。		言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げ、深い読みにつなげようとしている。		
	中間考査				〇〇	1
	『児の飴食ひたること』沙石集	古典の世界に親しむために、古語や作品の文化的背景を理解する。	音読し大意を捉えさせる。準拠ノートに取り組む。現代語訳し、どこが面白いか考えさせる	古典の世界に親しむために、古語や作品の文化的背景を理解しようとしている。	〇〇〇	3
		作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。		作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めようとしている。		
		教訓を理解し、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を効果的に使える。		教訓を理解し、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を効果的に使おうとしている。		

	『かくや姫の昇天』竹取物語	古典の世界に親しむために、古語や作品の文化的背景を理解する。	音読し大意を捉えさせる。準拠ノートに取り組む。現代語訳し、どこが面白いと考えさせる	古典の世界に親しむために、古語や作品の文化的背景を理解しようとしている。		11
		作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。		作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めようとしている。		
		教訓を理解し、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を効果的に使える。		教訓を理解し、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を効果的に使おうとしている。		
	期末考査				〇〇	1
2学期	『山月記』中島敦	言葉には文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。	①音読者・②語句調べ発表者・③解釈／解説者・④問題点や課題発表者 を決めてグループの全員が自分の役割を持ち、発表する。グループの総意としての課題や問題に思う点を挙げさせ、クラス全員で話し合う。	難解な熟語を調べ、自力で理解しようとしている。	〇〇〇	12
		作品の解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方を深める。		作品の解釈を深め、自分のものの見方、感じ方を深め、グループの考えとしてまとめようとしている。		
		我が国の言語文化の担い手としての自覚を持つ。		言葉を通じて積極的に他者や社会に関わり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、発表で言葉を効果的に使おうとしている。		
	『俳句実作』	我が国の言語文化の特質や我が国の文化を理解し、俳句の形式や決まりを理解する。	題詠Ⅰ、〔当期〕雑詠Ⅰで考えさせる。2句、書いて提出する。	俳句の形式や決まりを理解しようとしている。	〇〇〇	2
		有名句を味わい、自分のものの見方、感じ方を深め、実作し推敲する。		有名句を参考に実作し、推敲している。		
		句会の作法を学び、言葉を通して他者や社会に関わる。		他者の作品理解から、思いや考えを広げ、言葉を効果的に使おうとしている。		
	中間考査				〇〇	1
	『詩を味わう』	詩の様々な表現と効果について理解できる	グループに分かれて、詩の解釈をそれぞれに話し合う。自分の好きな歌詞をノートに書かせる。どこが好きなのか吟味する。グループで内容を共有する。	詩の言葉について調べ、理解しようとしている。	〇〇〇	7
		詩に表された作者の心情を読み味わうことができる。		詩に表された作者の心情を読み味わおうとしている。		
		我が国の言語文化の担い手としての自覚を持つ。		言葉を通じて積極的に他者や社会に関わり、思いや考えを広げ、言葉を効果的に使おうとしている。		
	『鞆』安部公房	句や漢字について理解を深め、読む楽しさを実感できる	寓意を自力で読み取り、仲間と意見交換する。グループでまとめて発表する。クラス全体と共有する。	語句や漢字について理解を深め、読む楽しさを実感しようとしている。	〇〇〇	8
		小説に込められた寓意を読み取り、考えを深めることができる。		小説に込められた寓意を読み取ろうとしている。考えを深めるようとしている。		
		我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を効果的に用いる。		言葉を通じて積極的に他者や社会に関わり、思いや考えを広げ、言葉を効果的に使おうとしている。		
	期末考査				〇〇	1

3学期	『鉄道員』（浅田次郎）	様々な作品に触れ、読書の幅を広げる。	感想・意見を書く。	様々な作品に触れ、読書の幅を広げようとしている。	〇〇〇	8
		内容の解釈を深め、共感や感動体験を得ることができる。		内容の解釈を深め、共感・感動している。		
		我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、本を通して他者と関わることができる。		我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、本を通して社会と関わろうとしている。		
	『表現を味わう』（随筆）	様々な文章を読み、構成や表現の工夫を読み取ることができる。	準拠ノートで整理する。	様々な文章を読み、構成や表現の工夫を読み取ろうとしている。	〇〇〇	8
		構成や表現の工夫を読み取り、筆者の考えを読み取る。		構成や表現の工夫を読み取り、筆者の考えを読みとろうとしている。		
		我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者と関わることができる。		我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者と関わろうとしている。		
	期末考査				〇〇	1

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目		論理国語			単位数	2単位
					対象学年	2学年
担当者	1組	2組	3組	4組	5組	
教科書	「新編論理国語」大修館書店					
補助教材	「アシスト常用漢字」数研出版					
目標	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
教科の目標	生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。		生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。	言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。		
科目の目標	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。		論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
	単元名	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態	配当時数
Ⅰ学期	汐見捻幸『知の登山、知の水路』	知 文章の構成や展開のしかたについて理解を深める。	・授業の取組の観察 ・ワークシート、ノート	知 効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	〇〇〇	7
		思 「学ぶ」ことについての筆者の考えを読み取る。		思 論点を明確にししながら要旨を把握する。		
		学 これからの学習で取り組みたいこと、興味のあることについて考える。		学 自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとする。		
	「論理的な人」とは	知 学術的な学習の基礎を学ぶために必要な語彙を習得する。	・授業の取組の観察 ・ワークシート、ノート	知 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	〇〇〇	7
		思 「論理」についての筆者の考えを読み取る。		思 「読むこと」において、文章の内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にししながら要旨を把握している。		
		学 筆者の主張をふまえ、これからの学習に興味をもつ。		態 論理についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、論理的に考える力を伸ばそうとしている。		
	中間考査				〇〇	1
	上田恵介『ウサギの耳はなぜ長い？』	知 具体例の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。	・授業の取組の観察 ・ワークシート、ノート	知 情報を重要度や抽象度などによって階層化して整理する方法について理解を深めている。	〇〇〇	7
		思 文章の構成や接続表現に注目しながら、筆者の主張を読み取る。		思 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にししながら要旨を把握している。		
		学 筆者の考えに興味を持ち、具体と抽象の関係をとらえようとしている。		態 共進化についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、具体と抽象の関係をとらえようとしている。		
	松岡慧祐『デジタル地図から見える世界』	知 対比の関係を意識しながら読み、論理の展開を的確にとらえる。	・授業の取組の観察 ・ワークシート、ノート	知 対比を示す語句、接続表現に注目しながら文章を読み、対比関係や論理展開をとらえる助けとしている。	〇〇〇	8
		思 文章の構成や展開のしかたに注目しながら、筆者の主張を読み取る。		思 「読むこと」において、対比の关系到注目し、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にししながら要旨を把握している。		
		学 筆者の考えに興味を持ち、対比の関係をとらえようとしている。		態 デジタル地図についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、対比の関係をとらえようとしている。		
	期末考査				〇〇	1

2学期	坂村健『人口の自然—科学技術時代の今を生きるために』	知 主張と根拠の関係を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。	・授業の取組の観察 ・ワークシート、ノート	知 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。	〇〇〇	7
		思 文章の構成や論理の展開に注意しながら、要旨を把握する。		思 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。		
		学 筆者の考えに興味を持ち、主張と根拠の関係をとらえようとする。		態 科学技術についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、主張と根拠の関係をとらえようとしている。		
	小川和也『「考える輩」であり続ける』	知 筆者の主張と、それを支える根拠の役割を的確にとらえる。	・授業の取組の観察 ・ワークシート、ノート	知 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。	〇〇〇	7
		思 文章の構成や論理の展開に注意しながら、要旨を把握する。		思 「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。		
		学 筆者の考えに興味を持ち、主張と根拠の関係をとらえようとする。		態 デジタル社会についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、主張と根拠の関係をとらえようとしている。		
	中間考査				〇〇	1
	甲斐かおり『量の時代から質の時代へ』	知 さまざまな統計資料を本文と関連づけながら読む。	・授業の取組の観察 ・ワークシート、ノート	知 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	〇〇〇	7
		思 統計資料と筆者の主張の関係を的確にとらえる。		思 「読むこと」において、文章と資料との関係を把握し、内容や構成を的確にとらえている。		
		学 筆者の考えに興味を持ち、文章と資料の関係をとらえようとする。		態 消費意識についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、文章と資料の関係をとらえようとしている。		
	小林直樹『若者の「海外旅行離れ」は本当か?』	知 統計資料の特徴をとらえ、必要な情報を的確につかむ。	・授業の取組の観察 ・ワークシート、ノート	知 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	〇〇〇	8
		思 主張の根拠となるように、統計資料を効果的に活用する。		思 「読むこと」において、文章の種類をふまえて、資料との関係を把握し、内容や構成を的確にとらえている。		
		学 筆者の考えに興味を持ち、文章と資料の関係をとらえようとする。		態 海外旅行離れについての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、文章と資料の関係をとらえようとしている。		
	期末考査				〇〇	1
3学期	内田樹『紙の本はなくなるまい』	知 対比の役割を意識して本文を読み、論理の展開をとらえる。	・授業の取組の観察 ・ワークシート、ノート	知 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	〇〇〇	7
		思 異なる立場の文章を比べて読み、考えを深める。		思 「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。		
		学 情報を比較・整理し筆者の考えを読み取ろうとしている。		態 情報を的確に比較・整理しながら、紙の本についての筆者の考えを読み取ろうとしている。		
	宇野常寛『情報化と紙の本のゆくえ』	知 具体例の役割や根拠に注意しながら筆者の主張を読み取る。	・授業の取組の観察 ・ワークシート、ノート	知 論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	〇〇〇	8
		思 異なる立場の文章を比べて読み、考えを深める。		思 「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。		
		学 情報を比較・整理し筆者の考えを読み取ろうとしている。		態 情報を的確に比較・整理しながら、情報化社会についての筆者の考えを読み取ろうとしている。		
	期末考査				〇〇	1

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目		古典演習Ⅱ			単位数	2単位
					対象学年	3学年
担当者		YⅠ				
教科書		なし				
補助教材		『必携 完成古典文法』尚文出版、『必携古典文法練習ノート』尚文出版、『古文単語301』尚文出版				
目標		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等	
教科の目標		生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。		言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	
科目の目標		古典の世界に親しむために、古語や作品の文化的背景を理解し、古典の文章を読解するために、それを適切に活用することができるようにする。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
	単元名	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準		知 思 態 配当時数
1学期	漢文入門	知 故事成語について知識を得る。	『呂氏春秋』『知音』『歴代名画記』『画竜点睛』	知 正しく訓読する。	〇〇〇	14
		思 話の展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。		思 話の内容を掴む。/登場人物の言動の理由を理解する。		
		学 漢文に親しみをもち、歴史的背景について理解を深める。		態 歴史的背景について理解しようとしている。		
	中間考査				〇〇	
	漢詩の世界	知 漢詩について知識を得る。	蘇軾「春夜」 王維「竹里館」	知 正しく訓読する。	〇〇〇	16
		思 描かれた情景を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。		思 話の内容を掴む。/登場人物の言動の理由を理解する。		
		学 漢詩に親しみをもち、歴史的背景について理解を深める。		態 歴史的背景について理解しようとしている。		
	期末考査				〇〇	
2学期	上代の和歌に親しむ	知 万葉集についての知識を得る。	万葉集	知 万葉集に親しみ暗誦できる。	〇〇〇	20
		思 万葉集に込められた意味を理解できる。		思 万葉集の意味を理解し、その背景や人物の心情を読み取ることができる。		
		学 万葉集を味わい感じたことを表現する。		態 万葉集を読んで感じたことを文章や発表で表現できる。		
	中間考査				〇〇	
	古文随筆と私たち	知 古文随筆についての知識を得る。	清少納言『枕草子』 兼好法師『徒然草』	知 随筆に使われている語句の意味がわかる。	〇〇〇	20
		思 随筆の文章に述べられた筆者の想いを理解できる。		思 随筆の内容を理解し、その背景や筆者の心情を読み取ることができる。		
		学 随筆を味わい感じたことを表現する。		態 随筆を読んで感じたことを文章や発表で表現できる。		
	期末考査				〇〇	
3学期	中古の和歌を味わう	知 古今集についての知識を得る。	古今和歌集	知 古今集に親しみ暗誦できる。	〇〇〇	8
		思 古今集に込められた意味を理解できる。		思 古今集の意味を理解し、その背景や人物の心情を読み取ることができる。		
		学 古今集を味わい感じたことを表現する。		態 古今集を読んで感じたことを文章や発表で表現できる。		
	期末考査				〇〇	

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目		国語演習			単位数	2単位
					対象学年	3年学年
担当者		ZI				
教科書		『改訂版 プレゼミ総合国語』国語常識・表現力養成（浜島書店）				
補助教材		わかるとける現代文解法のテクニック・同シリーズ速読・多読 啓隆社				
目標		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等	
教科の目標		生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。		言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	
科目の目標		実社会に必要な国語の知識や技能を身につけようとしている。実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに語句や語彙の構造や特色、用法及び標記の仕方などを理解しようとしている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。		生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。	
	単元名	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態	配当時数
1学期	○ プレゼミ基本編 ○ 現代文解法のテクニック	知 「プレゼミ基本編」に出題されている漢字の書き取り、読み国語常識等を理解する。	『改訂版 プレゼミ総合国語』 ○高校生として必要な国語常識と文章表現力「書く」力を同時に養う。 ○就職・進学試験に向けて一般常識を養う。 【現代文解法のテクニック】 ○共通テスト対応版問題集で、論理的に考える訓練をする。 ○「読む」文章全体をつかむ力、と「書く」要約文にまとめる力、を総合的に身につける。	知 「プレゼミ基本編」に出題されている漢字の書き取り、読み、国語常識等を理解している。	○○○	25
		思 表論文や文学的な文章の問題を解く。		思 表論文や文学的な文章の問題に取り組み、適切な回答を導き出している。		
		学 文章を読み取ることに興味をもち、自分の思いや考えを広げたり深めていく。		態 文章を読み取ることに興味をもち、自分の思いや考えを広げたり深めている。		
	期末考査				○○	1
2学期	○ プレゼミ必修編 ○ 現代文解法のテクニック	知 「プレゼミ必修編」に出題されている漢字の書き取り、読み国語常識等を理解する。	『改訂版 プレゼミ総合国語』 ○高校生として必要な国語常識と文章表現力「書く」力を同時に養う。 ○就職・進学試験に向けて一般常識を養う。 【現代文解法のテクニック】 ○共通テスト対応版問題集で、論理的に考える訓練をする。 ○「読む」文章全体をつかむ力、と「書く」要約文にまとめる力、を総合的に身につける。	知 「プレゼミ必修編」に出題されている漢字の書き取り、読み、国語常識等を理解している。	○○○	30
		思 表論文や文学的な文章の問題を解く。		思 表論文や文学的な文章の問題に取り組み、適切な回答を導き出している。		
		学 文章を読み取ることに興味をもち、自分の思いや考えを広げたり深めていく。		態 文章を読み取ることに興味をもち、自分の思いや考えを広げたり深めている。		
	期末考査				○○	1
3学期	○ プレゼミ完成編 ○ 現代文解法のテクニック	知 「プレゼミ完成編」に出題されている漢字の書き取り、読み国語常識等を理解する。	『改訂版 プレゼミ総合国語』 ○高校生として必要な国語常識と文章表現力「書く」力を同時に養う。 ○就職・進学試験に向けて一般常識を養う。 【現代文解法のテクニック】 ○共通テスト対応版問題集で、論理的に考える訓練をする。 ○「読む」文章全体をつかむ力、と「書く」要約文にまとめる力、を総合的に身につける。	知 「プレゼミ完成編」に出題されている漢字の書き取り、読み、国語常識等を理解している。	○○○	20
		思 表論文や文学的な文章の問題を解く。		思 表論文や文学的な文章の問題に取り組み、適切な回答を導き出している。		
		学 文章を読み取ることに興味をもち、自分の思いや考えを広げたり深めていく。		態 文章を読み取ることに興味をもち、自分の思いや考えを広げたり深めている。		
	期末考査				○○	1

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目		国語表現			単位数	2単位
					対象学年	3年学年
担当者		Y2				
教科書		国語表現 大修館書店				
補助教材		国語表現 基礎練習ノート 大修館書店				
目標		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等		
教科の目標		生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。		
科目の目標		社会に必要な国語の知識や技能を身に着けるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
	単元名	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態	配当時数
1学期	実践トレーニング	知 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	・言葉と表記、係り受け、文末表現の統一、接続表現の使い方などを意識し、より適切な表現になるように吟味する。 ・原稿用紙の使い方を理解する。 教材 教科書、基礎練習ノート	知 ワークシート	〇〇〇	25
		思 読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように、接続表現の使い方を吟味し、文章全体を整えている。		思 論作		
		学 単元のまとめとしての設問に積極的に取り組もうとしている。		態 観察		
	期末考査				〇〇	1
2学期	小論文・レポート入門 I 単元 レッスン1 小論文とは何か	知 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	・言葉と表記、係り受け、文末表現の統一、接続表現の使い方などを意識し、より適切な表現になるように吟味する。 ・原稿用紙の使い方を理解する。 教材 教科書、基礎練習ノート	知 ワークシート	〇〇〇	15
		思 読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように、接続表現の使い方を吟味し、文章全体を整えている。		思 論作		
		学 単元のまとめとしての設問に積極的に取り組もうとしている。		態 観察		
	レッスン2 反論を想定して書く	知 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	・言葉と表記、係り受け、文末表現の統一、接続表現の使い方などを意識し、より適切な表現になるように吟味する。 ・原稿用紙の使い方を理解する。 教材 教科書、基礎練習ノート	知 ワークシート	〇〇〇	15
		思 読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように、接続表現の使い方を吟味し、文章全体を整えている。		思 論作		
		学 単元のまとめとしての設問に積極的に取り組もうとしている。		態 観察		
	期末考査				〇〇	1

3学期	レッスン3 文章を読み取って書く	知 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色について理解を深め、伝え合う目的や場面、相手、手段に応じた適切な表現や言葉遣いを理解し、使い分けている。	・言葉と表記、係り受け、文末表現の統一、接続表現の使い方などを意識し、より適切な表現になるように吟味する。 ・原稿用紙の使い方を理解する。 ・ 教材 教科書、基礎練習ノート	知 ワークシート	〇〇〇	20
		思 読み手に対して自分の思いや考えが効果的に伝わるように、接続表現の使い方を吟味し、文章全体を整えている。		思 論作		
		学 単元のまとめとしての設問に積極的に取り組もうとしている。		態 観察		
	期末考査				〇〇	I

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目		文学国語			単位数	2単位		
					対象学年	3学年		
担当者	1組	2組	3組	4組	5組			
教科書		「新編 文学国語」大修館書店						
補助教材		「新編 文学国語 学習ノート」大修館書店、「新訂 総合国語便覧」第一学習社、						
目標		知識及び技能		思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等			
教科の目標		生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことが出来るようにする。		生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。	言葉の持つ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、わが国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。			
科目の目標		生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身につけるとともに、わが国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。		深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、わが国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う			
	単元名	単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準	知 思 態	配当時数	
1学期	『飛ぶことを知っている魂』 梨木香歩	知 文体の特徴や表現に注目し、その効果を考える。		・指導事項 音読し大意を捉える。/筆者独自のものの見方について考える。/グループワークによる意見交換/他者理解 ・教材 教科書、便覧、パソコン	知 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしようとしている。	〇〇〇	4	
		思 具体例をもとに、筆者のメッセージを読み取る。			思 作品や文章に現れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈しようとしている。			
		学 友人と意見交換し、他者理解をする。			態 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わり、思いや考えを広げ、自己理解・他者理解しようとしている。			
	『おぼろ月』 藤沢周平	知 特徴的な表現に注目しながら作品を読み味わう。		・指導事項 音読し大意を捉える。/筆者独自のものの見方について考える。/グループワークによる意見交換/他者理解 ・教材 教科書、便覧、パソコン	知 語句や特有の表現を調べ、自力でストーリーを理解しようとしている。	〇〇〇	6	
		思 登場人物の考え方や生き方について、時代背景をふまえて考える。			思 文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えようとしている。			
		学 他者と内容を共有し、更に深い読みにつなげる。言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			態 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わり、思いや考えを広げ、深い読みにつなげようとしている。			
	中間考査						〇〇	1
	『山椒魚』 井伏鱒二	知 登場する生き物たちの性格や心理を読み取る。		・指導事項 音読し大意を捉える。/筆者独自のものの見方について考える。/グループワークによる意見交換/他者理解 ・教材 教科書、便覧、パソコン	知 難解な熟語を調べ、自力で理解しようとしている。	〇〇〇	8	
		思 作品の解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方を深め、自分の考えをもつこと。			思 作品の解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方を深め、グループの考えとしてまとめようとしている。			
		学 話のおもしろさと、そこに込められた寓意を読み味わう。			態 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、発表で言葉を効果的に使おうとしている。			
	『桐壺』 源氏物語	知 登場人物の設定や描写の仕方をとらえ、読みを深める。		・指導事項 音読し大意を捉える。/筆者独自のものの見方について考える。/グループワークによる意見交換/他者理解 ・教材 教科書、便覧、パソコン	知 古典の世界に親しむために、古語や作品の文化的背景を理解しようとしている。	〇〇〇	7	
		思 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めること。			思 作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めようとしている。			
		学 教訓を捉え、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			態 教訓を理解し、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を効果的に使おうとしている。			
	期末考査						〇〇	1

2学期	『短歌』	知 我が国の言語文化の特質や我が国の文化を理解し、俳句の形式について理解できる。	・指導事項 音読し大意を捉える。/筆者独自のものの見方について考える。/グループワークによる意見交換/他者理解 ・教材 教科書、便覧、パソコン	知 俳句の形式や決まりを理解しようとしている。	〇〇〇	2
		思 有名句を味わい、自分のものの見方、感じ方を深め、実作し推敲できる。		思 有名句を参考に実作し、推敲している。		
		学 投句・選句の作法を学び、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		態 他者の作品理解から、思いや考えを広げ、言葉を効果的に使おうとしている。		
	『共感と驚異』 穂村弘	知 引用された作品を読み、筆者の主張を確かめる。	・指導事項 音読し大意を捉える。/筆者独自のものの見方について考える。/グループワークによる意見交換/他者理解 ・教材 教科書、便覧、パソコン	知 詩の言葉について調べ、理解しようとしている。	〇〇〇	7
		思 筆者の考える、短歌が人を感動させるための方法を読み取る。		思 詩に表された作者の心情を読み味わおうとしている。		
		学 我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		態 教訓を理解し、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を効果的に使おうとしている。		
	中間考査				〇〇	1
	単元『その日東京駅五時二十五分発』西川美和	知 心情や情景描写に注意して読む。	・指導事項 音読し大意を捉える。/筆者独自のものの見方について考える。/グループワークによる意見交換/他者理解 ・教材 教科書、便覧、パソコン	知 語句や漢字について理解を深め、読むことを楽しんでいる。	〇〇〇	8
		思 「ぼく」が戦争についてどのように感じ、考えているかを読み取る。		思 不特定の読み手を想定し、構成や表現を工夫しようとしている。		
		学 我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		態 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わり、思いや考えを広げ、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。		
	『私たちの黄色』 角田光代	知 言葉の働きに注意して、自分の思いを表現できる。	・指導事項 音読し大意を捉える。/筆者独自のものの見方について考える。/グループワークによる意見交換/他者理解 ・教材 教科書、便覧、パソコン	知 言葉の働きに注意して、自分の思いを表現しようとしている。	〇〇〇	7
		思 ささまざまな小説を読み、構成や表現の工夫を読み取る。		思 不特定の読み手を想定し、構成や表現を工夫しようとしている。		
		学 我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		態 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わり、思いや考えを広げ、進んで読書に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。		
	期末考査				〇〇	1
3学期	『四面楚歌』 史記	知 中国の伝統文化と、それらの文化的背景について理解を深めることができる。	・指導事項 音読し大意を捉える。/筆者独自のものの見方について考える。/グループワークによる意見交換/他者理解 ・教材 教科書、便覧、パソコン	知 語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深めようとしている。	〇〇〇	12
		思 漢文の表現に着目し、項王の心情を読み取る。		思 文章の種類を踏まえて、作者の考えを捉えようとしている。		
		学 中国文化の深い理解を得て、社会に関わろうとする態度を養う。		態 言葉を通じて積極的に他者や社会に関わり、思いや考えを広げ、言葉を効果的に使おうとしている。		
	『こころ』 夏目漱石	知 優れた表現に触れ、読み味わう。	・指導事項 音読し大意を捉える。/筆者独自のものの見方について考える。/グループワークによる意見交換/他者理解 ・教材 教科書、便覧、パソコン	知 様々な作品に触れ、読書の幅を広げようとしている。	〇〇〇	12
		思 内容の解釈を深め、共感や感動体験を得ることができる。		思 内容の解釈を深め、共感、感動している。		
		学 登場人物の生き方から、自分自身の生き方から、自分自身の生き方に考えを深める。		態 /我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や社会に関わろうとしている。		
	期末考査				〇〇	1

指導目標 知=知識及び技能 思=思考力、判断力、表現力等 学=学びに向かう力、人間性等

評価規準 知=知識・技能 思=思考・判断・表現 態=主体的に学習に取り組む態度

教科・科目		論理国語			単位数	3単位
					対象学年	3学年
担当者	1組	2組	3組	4組	5組	
教科書		「新編論理国語」大修館書店				
補助教材		「書きたくなるアシスト常用漢字」数研出版、「速読＋要約&語彙チェック 1レベル 論理20」尚文出版				
目標		知識及び技能	思考力、判断力、表現力等		学びに向かう力、人間性等	
教科の目標		生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。		言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。	
科目の目標		実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。		言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	
	单元名	单元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準		知 思 態 配当時数
1学期	自己を見つめて「探究する力」	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにする。	・教材 ・筆者の問題意識をとらえ、主張を読み取る。 ・読み取ったことをふまえて、自分の将来について考えを深める。	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	〇〇〇	6
		思・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握する。		思・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。		
		学・探究についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、自分の思いや考えを広げたり深める。		態・探究についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、自分の思いや考えを広げたり深めたりしようとしている。		
	自己を見つめて「補助線を引ながら考える」	知・自らの考えを論証するために必要な語句の働きを理解し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにする。	・教材 ・筆者の問題意識をとらえ、主張を読み取る。 ・読み取ったことをふまえて、自分の思いや考えを深める。	知・自らの考えを論証するために必要な語句の働きを理解し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	〇〇〇	8
		思・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握する。		思・「読むこと」において、文章の種類をふまえて、内容や構成、論理の展開などを的確にとらえ、論点を明確にしながら要旨を把握している。		
		態・筆者の示す現代社会の問題を自分事としてとらえ、筆者の主張を主体的に読み取ろうとするとともに、実生活でのさまざまな問いに対して補助線を引き、考える。		態・筆者の示す現代社会の問題を自分事としてとらえ、筆者の主張を主体的に読み取ろうとするとともに、実生活でのさまざまな問いに対して補助線を引いて積極的に考えようとしている。		
	問いを立てて書く——テーマ型小論文	・抽象的なテーマから問を立てる方法について理解を深めている。 ・テーマ型小論文における段落構成や論の形式などを理解する。	・テーマをもとに問いを立てて小論文を書く。 ・抽象的なテーマから問いを立てる方法を身につける。	・小論文における、文や文章の効果的な組み立て方や接続のしかた、抽象的なテーマから問いを立てる方法について理解を深めている。 ・テーマ型小論文における、効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。	〇〇〇	6
		・「書くこと」において、自分で立てた問いについて、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえる。		・「書くこと」において、自分で立てた問いについて、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。		
		・これまでの「書くこと」の学習をもとにして、自ら問いを立て、小論文を書く。		・これまでの「書くこと」の学習をもとにして、自ら問いを立て、小論文を書くようにしている。		
	中間考査				〇〇	
	思考を深める「和の思想、間の文化」	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深める。	・筆者の主張と、それを支える根拠の関係を吟味する。 ・論の展開のしかたや具体例の役割について考える。	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。	〇〇〇	6
		思・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。		思・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。		
		態・美についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、筆者の主張を支える根拠・論拠をとらえる。		態・美についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、筆者の主張を支える根拠・論拠をとらえようとしている。		

	思考を深める 「ミロのヴィーナス」	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。	・筆者の主張と、それを支える根拠の関係を吟味する。 ・論理の展開や比喩的な表現の意図をとらえる。	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。	〇〇〇	8
		思・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈する。		思・「読むこと」において、主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し、文章や資料の妥当性や信頼性を吟味して内容を解釈している。		
		学・美についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、筆者の主張を支える根拠・論拠をとらえる。		態・美についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、筆者の主張を支える根拠・論拠をとらえようとしている。		
	文章を読んで書こう —課題文型小論文	・課題文型小論文における段落構成や論の形式などを理解する。 ・「書くこと」において、社会的な話題について書かれた論説文などをふまえて、自分で論点を見だし、自分の考えを短い論文にまとめる。 ・これまでの「書くこと」の学習をもとにして、自ら問いを立て、小論文を書く。	・課題文から小論文で取りあげる論点を的確に見いだす。 ・課題文の主旨を的確にとらえ、それに対する自分の主張を書く。	・課題文型小論文における、効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかたについて理解を深めている。 ・「書くこと」において、社会的な話題について書かれた論説文などをふまえて、自分で論点を見だし、自分の考えを短い論文にまとめている。 ・これまでの「書くこと」の学習をもとにして、課題文からの確に論点を見だし、自分の主張を展開しようとしている。	〇〇〇	6
	期末考査					
2学期	社会に向かって 「志望理由書を書こう」	知・文や文章の効果的な組み立て方や接続のしかたについて理解を深める。 思・志望理由を明確にして、それを支える適切な根拠をそろえて書く。 態・収集した情報を適切に用い、相手の印象に残る志望理由を書く。	・必要な情報を集め、それらを適切に結びつけて、相手の印象に残る志望理由書を書く。	知・文や文章の効果的な組み立て方や接続のしかたについて理解を深めている。 思・「書くこと」において、志望理由を明確にして、それを支える適切な根拠をそろえている。 態・収集した情報を適切に用い、相手の印象に残る志望理由を書こうとしている。	〇〇〇	6
	統計資料を読んで 書こう—データ型小論文	・データ型小論文における、効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかた、統計データの適切な引用方法について理解する。 ・社会的な話題についての統計資料などをふまえて、自分の考えを短い論文にまとめる。 統計資料からの確に論点を見だし、自分の主張を展開しようとする。	・統計資料から小論文で取りあげる論点を的確に見いだす。 ・統計資料のデータを適切に引用して自分の主張を書く。	・データ型小論文における、効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開のしかた、統計データの適切な引用方法について理解を深めている。 ・「書くこと」において、社会的な話題についての統計資料などをふまえて、自分で論点を見だし、自分の考えを短い論文にまとめている。 態・これまでの「書くこと」の学習をもとにして、統計資料からの確に論点を見だし、自分の主張を展開しようとしている。		
	視点を变えて 「人類の進化から考える「心」の誕生」	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにする。 思・「読むこと」において、「心」についての筆者の主張を、根拠や結論を導く論拠を明確に理解した上で批判的に検討し、内容についての理解を深める。 態・心についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、関連する文章との比較をとおして自分の考えを広げる。	・複数の文章を比較・分析しながら読み、考えを深める。 ・問題提起と答えの関係を的確にとらえ、自分の考えをもつ。	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 思・「読むこと」において、「心」についての筆者の主張を、根拠や結論を導く論拠を明確に理解した上で批判的に検討し、内容についての理解を深めている。 態・心についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、関連する文章との比較をとおして自分の考えを広げようとしている。	〇〇〇	8
	視点を变えて 「ロボットに心はあるか」	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにする。 思・「読むこと」において、「心」についての筆者の主張を、根拠や結論を導く論拠を明確に理解した上で批判的に検討し、内容についての理解を深める。 態・心についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、関連する文章との比較をとおして自分の考えを広げる。	・複数の文章を比較・分析しながら読み、考えを深める。 ・問題提起と答えの関係を的確にとらえ、自分の考えをもつ。	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 思・「読むこと」において、「心」についての筆者の主張を、根拠や結論を導く論拠を明確に理解した上で批判的に検討し、内容についての理解を深めている。 態・心についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、関連する文章との比較をとおして自分の考えを広げようとしている。		
	視点を变えて 「クオリアと心」	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにする。 思・「読むこと」において、「心」についての筆者の主張を、根拠や結論を導く論拠を明確に理解した上で批判的に検討し、内容についての理解を深める。 態・心についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、関連する文章との比較をとおして自分の考えを広げる。	・複数の文章を比較・分析しながら読み、考えを深める。 ・独特の概念や筆者の主張を的確にとらえ、自分の考えをもつ。	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 思・「読むこと」において、「心」についての筆者の主張を、根拠や結論を導く論拠を明確に理解した上で批判的に検討し、内容についての理解を深めている。 態・心についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、関連する文章との比較をとおして自分の考えを広げようとしている。	〇〇〇	8
	中間考査					

現代を考える 「政治の本質」	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにする。	・筆者の主張をふまえて、現代社会についての考えを深める。 ・発想のしかたや論理の展開に注意して、筆者の主張を読み取る。	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	〇〇〇	8
	思・「読むこと」において、関連する文章や資料をもとに、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深める。		思・「読むこと」において、関連する文章や資料をもとに、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。		
	態・政治についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、現代社会についての自分の考えを広げる。		態・政治についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、現代社会についての自分の考えを広げようとしている。		
現代を考える 「「である」ことと「する」こと」	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにする。	・筆者の主張をふまえて、現代社会についての考えを深める。 ・対比の役割を意識して本文を読み、筆者の主張を的確につかむ。	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	〇〇〇	6
	思・「読むこと」において、関連する文章や資料をもとに、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深める。		思・「読むこと」において、関連する文章や資料をもとに、書き手の立場や目的を考えながら、内容の解釈を深めている。		
	態・日本の社会についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、現代社会についての自分の考えを広げる。		態・日本の社会についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、現代社会についての自分の考えを広げようとしている。		
未来に目を向けて 「人口減少社会の到来」	知・自らの主張を論理的に述べるために必要な語句に目を向け、文章の中での使われ方を理解することとおして、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・論理の展開において、主張と主張の根拠となる資料との関係について理解を深める。	・日本社会や世界が抱える課題に関心をもち、考えを広げたり深めたりする。 ・本文中の数値や地図を的確に読み取り、筆者の主張をつかむ。	知・自らの主張を論理的に述べるために必要な語句に目を向け、文章の中での使われ方を理解することとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・論理の展開において、主張と主張の根拠となる資料との関係について理解を深めている。	〇〇〇	8
	思・「読むこと」において、「人口減少社会」という現代の日本が抱える課題に対する筆者の考えを的確に把握し、新しく得た知見やものの見方をおして、自分の考えを深める。		思・「読むこと」において、「人口減少社会」という現代の日本が抱える課題に対する筆者の考えを的確に把握し、新しく得た知見やものの見方をおして、自分の考えを深めている。		
	態・「人口減少」についての筆者の考えを的確に読み取ることに興味をもち、自らが暮らす地域社会が抱える課題について目を向け、自分の考えを広げる。		態・「人口減少」についての筆者の考えを的確に読み取ることに興味をもち、自らが暮らす地域社会が抱える課題について目を向け、自分の考えを広げようとしている。		
期末考査				〇〇	
3学期 未来に目を向けて 「未来の地図帳」	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにする。	・日本社会や世界が抱える課題に関心をもち、考えを広げたり深めたりする。	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	〇〇〇	8
	思・「読むこと」において、社会について、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深める。		思・「読むこと」において、社会について、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。		
	態・人口減少についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、日本社会や世界が抱える課題について、自分の考えを広げる。		態・人口減少についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、日本社会や世界が抱える課題について、自分の考えを広げようとしている。		
未来に目を向けて 「エネルギー耕作型文明への転換」	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深める。	・日本社会や世界が抱える課題に関心をもち、考えを広げたり深めたりする。	・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	〇〇〇	6
	思・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深める。		思・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。		
	態・豊かさについての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、日本社会や世界が抱える課題について、自分の考えを広げる。		態・エネルギー問題についての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、日本社会や世界が抱える課題について、自分の考えを広げようとしている。		
未来に目を向けて 「豊かさとのつながり」	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにする。 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深める。	・日本社会や世界が抱える課題に関心をもち、考えを広げたり深めたりする。	知・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。	〇〇〇	6
	思・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深める。		思・「読むこと」において、人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。		
	態・豊かさについての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、日本社会や世界が抱える課題について、自分の考えを広げる。		態・豊かさについての筆者の考えを読み取ることに興味をもち、日本社会や世界が抱える課題について、自分の考えを広げようとしている。		
期末考査				〇〇	

指導目標 知＝知識及び技能 思＝思考力、判断力、表現力等 学＝学びに向かう力、人間性等

評価規準 知＝知識・技能 思＝思考・判断・表現 態＝主体的に学習に取り組む態度